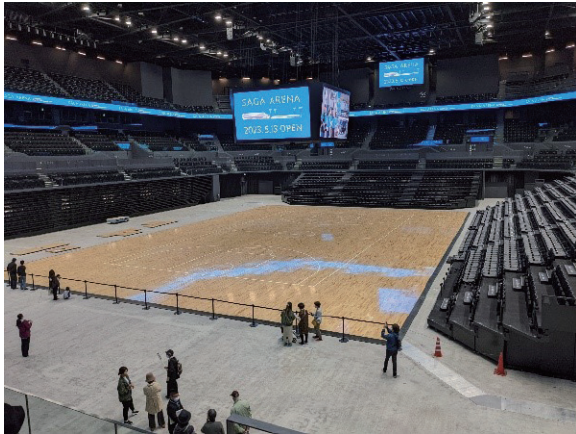


スポーツ・アリーナ整備を契機としたまちの再生

有馬 隆文 佐賀大学芸術地域デザイン学部

1. はじめに

佐賀県は 2024 年国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて JR 佐賀駅の北 1.5km に「SAGA サンライズパーク」を整備した。本パーク内のメインアリーナの観客席数は約 8,400 席、アリーナの中央には大型ビジョンを有し、スポーツ・コンサートのみならず各種のエンターテインメントの開催、さらには国際的な会議や展示会にも活用できるスポーツ・文化施設である。2023 年 5 月のオープン以降、バスケットボールやバレーボールのプロリーグ戦が開催され、九州一円から多数の来場者を集めている。



SAGA アリーナ

2. まち再生のカタリストとしてのアリーナ

「SAGA サンライズパーク」の立地する佐賀市は、人口 23 万人。他の地方都市と同様に人口は減少傾向にあり、今後も少子高齢化が進行すると予測されている。また佐賀市の中心市街地では、空き店舗・空き地・平面駐車場が散見され、空洞化も進展している。一方、郊外に大型ショッピングセンターやロードサイドの大型店舗が立地し、中心市街地の活力や求心力は年々低下している。

このような状況のなかで、アリーナの整備が実施されたわけである。すなわち、アリーナは単なる「国スポの会場整備」という位置づけでなく、中心市街地再生のカタリスト（触媒）としての役割も期待された。具体的には、SAGA サンライズパークの来場者をアリーナに留め置くことなく、佐賀駅周辺やさらにその南側の中心市街地へ導き、まちの活性化に役立てたいと県と市は考えた。

3. 駅とアリーナを結ぶ整備

SAGA サンライズパークには来場者用の駐車場がない。そ

の代わりに街なかの駐車場利用と徒歩によるアクセスや公共交通利用を推奨している。

このような取り組みに合わせて、佐賀市は、佐賀駅南口・北口広場の整備、佐賀駅から SAGA サンライズパークを結ぶサンライズストリートの整備、さらにはサンライズストリート沿いに交流施設の整備を現在進めている。

(1) 佐賀駅南口広場

「車中心から人中心へ」をコンセプトに、大屋根・植栽・ベンチを有する交流広場を整備。整備後には若者が広場に滞留し、周辺では新たな商業施設が開業。



佐賀駅南口広場（出典：佐賀市 HP）

(2) 佐賀駅北口広場

車両出入り口を集約またスクランブル交差点を整備。



佐賀駅北口広場（出典：佐賀市 HP）

(3) サンライズストリート

車道 4 車線を 2 車線化。アリーナへの歩道の拡幅・高質化。マイカー社会の佐賀で、車を抑制する政策を実施。



サンライズストリート

(4) まちの居場所「らふらふ」 (暫定利用)

サンライズストリートの更なる魅力向上を目的に佐賀市は沿道に交流施設を整備中である。その整備過程で佐賀大学が暫定的にまちの居場所「らふらふ」を開設して様々な活動を行った（本年 10 月まで）。

4. ハード的整備からソフト的取り組みへ

佐賀駅からアリーナまでのハード的整備は概ね完了を迎えようとしているが、まちづくりの機運を維持するために「SAGA サンライズパーク ストリートフェスタ」などのイベントを行い、現在、ソフト的取り組みに重点を移して地域活性化に取り組んでいる。



SAGA サンライズパーク ストリートフェスタの様子